

St. Luke's International University Repository

第32回聖路加看護大学公開講座: 学術活動報告 (2000年度)

| | |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: jpn 出版者: 公開日: 2007-12-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 羽山, 有美子, 岡村, 晴子, 片桐, 和子, 錦戸, 典子, 深谷, 計子, 八坂, ヨシエ, 横山, 由美 メールアドレス: 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/10285/404 |

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



第32回聖路加看護大学公開講座

第32回公開講座が、「病院から地域へ展開するヘルスプロモーション」をテーマに、イギリスから Sally Robinson 先生を講師に迎えて、2000年6月10日、アリス C. セントジョン・メモリアルホールにて開催された。

21世紀を目前に、すべての人々が健康で幸せな生活・人生を送れるような地域社会を共に作りあげていく「ヘルスプロモーション」が、時代のキーワードになっている現状を踏まえて、病院で働く看護職の立場からどのようにアプローチしていくかを改めて考えてみようという企画であった。

講師の Sally Robinson 先生は、数カ国での外科病棟を中心とした臨床看護経験をもち、帰国後に学位取得、現在はヘルスプロモーションを中心とした研究・教育活動に広く携わっている。実際にお会いした Sally さんは、チャーミングで可愛らしい方で、講演も日本語の挨拶に始まる和やかな雰囲気であった。午前中は、病院看護にとっては馴染みの薄いヘルスプロモーションの概念と看護の役割についてご講演いただいた。午後は、パネルディスカッションとして日本における実践の現状を、聖路加国際病院の生活習慣病教育センター糖尿病専科担当の金子婦長、さわやか学習センター担当の吉川婦長、および職域との連携の立場から本学教員の錦戸が報告し、フロアおよび Robinson 先生を交えてディスカッションを行った。その後、Robinson 先生より、イギリスの病院におけるヘルスプロモーション活動の現状や日々の看護実践への活かし方についてご講演いただき、無事一日のプログラムが終了した。

一般参加の方々にとっては、これまでの施設内看護だけに留まらない病院看護の可能性の拡がりを感じさせる新鮮な内容であったようで、アンケート結果も概ね好評だった。一方、学内の教員・大学院生からは、より高度な内容を求める意見もあった。公開講座あり方委員会により示された国際性、先端的、大学院レベルなどのキーワードをコンセプトとした新たな公開講座が1999年度にスタートして、今回で2年目。海外から講師を招聘する場合の費用に見合う収益性を考えると、参加費を払って下さる一般参加者向きのわかりやすさも求められ、一方では大学院レベルの先端的な内容という一見相反する課題を担い、委員一同頭を悩ます日々である。今後は、国内（あるいは学内）講師の採用なども視野に入れて、本学の公開講座のあり方をさらに柔軟に検討していく必要があるかもしれない。学内の皆様からのアイデア・ご意見も、ぜひお聞かせ下さい。

（委員長：羽山由美子

委員：岡村晴子、片桐和子、錦戸典子、深谷計子、八坂ヨシエ、横山由美）